

# 適性検査Ⅰ

## 注 意

- 1 問題は **1** のみで、4 ページにわたって印刷してあります。
- 2 検査時間は四十五分で、終わりは午前九時四十五分です。
- 3 声を出して読むではいけません。
- 4 答えは全て解答用紙に明確に記入し、解答用紙だけを提出しなさい。
- 5 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 6 **受検番号**を解答用紙の決められたらんに記入しなさい。

問題は次のページからです。

1

次の〔詩〕と〔文章〕を読み、あとの問題に答えなさい。

(※印の付いている言葉には本文のあとに〔注〕があります。)

〔詩〕

空気の流れが

見えるといい

川のように

すると

とんびが

どのように泳いでいるか

その種あかしが

ありありと

わかるだろうに

見えるもの

のすぐうしろに

見えないもの

がある

人の言葉も

その意味では

空をとぶとんびだ

(川崎洋「とんび」による)

## 〔文章〕

きょうは社会の授業で地図記号というものを習った。バツじるしは交番のマークで、でもそれをマルで囲むと警察署のマークになるとか、文のしるしは小学校と中学校で、それを丸で囲むと高校になるとか。望子がいちばん気に入ったのは田んぼのマークで、だから授業中に作った好きな町の地図は田んぼだらけになった。隣のクラスでもきょうは社会の授業があつて、美津喜ちゃんとなりの作った地図の町は図書館だらけになってしまったそうだ。親友の美津喜ちゃんとは、三年生になってクラスが分かれてしまった。でも登下校はいつもいっしょだし、家が近いので、帰ってからもよくいっしょに遊ぶ。

望子が美津喜ちゃんとはじめて会ったのは、この街に引越してまだもない日だった。場所は駅の反対側の自然観察公園で、望子はその間に、母親とおばちゃん※とりっちゃん※の三人とでかけた。自然観察公園といっても、スポーツのできるグラウンドがあつたり復元された農家があつたりする広い施設で、母親やりっちゃんの子供のころにはなかったものらしく、「望子連れて行く」という名目のわりには大人たちの方がはしゃいでいた。施設内を歩いているうちに、木に囲まれた広場にでた。何のための空間なのか、いま

でも望子には謎なのだが、そこは一面うす茶色で、端にベンチが置かれている以外には何もなく、殺風景で、その後何度も行つたが、大抵ひと気がない。うす茶色なのは地面に敷かれているもののせいで、はじめ、望子は枯れ葉とか松ぼっくりとかどんぐりとかだろうと思つた。が、近くで見ると、そのどれでもなく、望子はその正体不明のモノの踏み心地にうっとりした。心を奪われたといつてもよかつた。一歩ごとに靴底に伝わる感触はしつとりとやわらかく、自分の重さがふんわり返ってくるみたいなのに、そのふんわりは安定して歩いて歩きやすく、望子は大人の誰かとつないでいた手を離し、一人で歩きまわったり、しゃがんでそのモノに触つてみたりした。「ほら、行くわよ」と母親に促されたとき、立ち去りがたかつたことを憶えている。その広場のベンチに、美津喜ちゃんはお母さんと坐つていた。長い髪を両方の耳の上で二つに結んでいて、かわいかつた。

「あら、おいしそうね」

誰にでも気安く話しかけてしまつたおばちゃんが言い（美津喜ちゃん母子はお弁当をたべていたのだ）、おむすびの具は何かとか、年はいくつとか美津喜ちゃんに訊く横で、母親同士もなにか言葉——引越してきたばかりでとか、ここはいつごろできた公園な

のかとか——交<sup>か</sup>わしていたような気がする。望子は黙<sup>だま</sup>っていた。ただ立って、その髪の長い女の子を見ていた。驚<sup>おどろ</sup>くことが起<sup>おこ</sup>つたのはそのときだった。おばちゃんの質問に恥かしそうにこたえていた美津喜ちゃんが、ふいに望子をまっすぐに見て、

「これね、ウツドチップっていうんだよ」

と言ったのだ。望子はびっくりして返事ができなかった。

「へえ、よく知っているのね」

かわりにおばちゃんがこたえた。地面に敷かれたモノが何であるのか、望子は誰にも質問していなかった。初対面の美津喜ちゃんにはもちろん、おばちゃんにもりっちゃんにも母親にも。それはつまり、美津喜ちゃんが望子を観察していたことを意味した。観察して、望子の気持ちを正確に見抜<sup>みぬ</sup>いたことを。

母親同士の会話によって、美津喜ちゃんと望子がその春からおなじ小学校に通うことや、家が近所であること（自然観察公園は家からかなり距離<sup>きょり</sup>があり、望子たち四人はりっちゃんの車でそこに行ったのだが、美津喜ちゃん母子は自転車で来ていた）がわかり、入学式を待たずに、互<sup>たが</sup>いの家を行き来<sup>き</sup>するようになった。「これね、ウツドチップっていうんだよ」

望子は、いまでもときどきその言葉を思いだす。いまよりずっと

小さかった美津喜ちゃんの、白い、ひどく生真面目<sup>きまじめ</sup>な顔も。

（江國香織「川のある街」による）

### 〔注〕

※ おばちゃん——望子の祖母。

※ りっちゃん——望子のおば。

※ 殺風景<sup>ざつぷうけい</sup>——おもしろみや、おもむき（味わい）のない様子。

※ 生真面目<sup>きまじめ</sup>——ひじょうにまじめな様子。

〔問題1〕〔詩〕の「見えるもの」と「見えないもの」とは、「とんび」

という鳥の場合、何を指すでしょうか。それぞれ二十字以内で説明しなさい。

〔問題2〕〔詩〕で中心となっている作者の考え方をふまえると、

〔文章〕の望子はどんなことから何を感じとったと言えるでしょうか。百字以内で、「くから・・・を感じとった。」という形にまとめなさい。

〔問題3〕〔詩〕と〔文章〕を読んで、「見えるもの」からその

背後はごにある人の思いが伝わり、あなたのものの見方や考え方が広がった経験を三百五十字以上四百字以内で具体的に書きなさい。

### 〈きまり〉

○ 題名は書きません。

○ 最初の行から書き始めます。

○ 段落だんらくを設けず、一まずめから書きなさい。

○ 、 や 。 や 」などもそれぞれ字数に数えます。これらの記号が行の先頭に来るときには、前の行の最後の字と同じように「」で一字と数えます。

○ 。 と 」が続く場合には、同じまずめに書きます。この場合、「」で一字と数えます。